

ボストン生活

第2期 OG 安田 麻美
(旧姓 遠藤)

2008年の夏から、主人のMBA留学に伴いアメリカ、ボストンで暮らしています。夏は軽井沢のように爽やかな気候になりますが、冬の寒さは厳しく、この原稿を書いている日の最高気温も-6℃という東京ではありえない気温になっています。

いずれは主人が留学することはわかっていたものの、いざ留学するとなると、私にも様々な変化が起きました。一番大きな変化はやはり、仕事を辞めること。一生働いていたいという強い希望があったわけでもないのですが、やはり仕事を辞めるというのは大きな決断です。

渡米してからもしばらくは、妻としてだけの自分の存在になかなか慣れませんでした。これまで私個人としていられた場所があったのに、ここアメリカではどうしても、パートナー（奥さん）としてしか紹介されないこと、はじめましての場でも「妻の麻美です」それだけで済んでしまう自分の存在に慣れず、何となくさみしい思いをしたものです。

加えて、私にとっての初めての海外生活。「将来は、海外で暮らしたいから、海外転勤のある職業の人と結婚したい♪」なんて女子もいるでしょうが、私にそんな気は全くなし。英語は嫌いだし、海外に住みたいなんて思ったこともありませんでした。そんな人が海外で暮らすことになるのだから、人生は不思議なものです。

主人が留学したのは、ハーバードビジネススクール（以下、HBSと略します）という学校です。あのマイケル・ポーターの授業が普通にあって、私はびっくりです。

主人が入学した年は1学年900人いる中で、日本人はたった6人。うち、男性は、主人を含め2人だけ。（日本を引っ張るのはやはり女性でしょうか？（笑））さらに結婚しているのは私たち夫婦だけ。日本人奥さん仲間を期待していた私はあえなく撃沈です。

HBSはパートナーに対してのケアも手厚く、仲良くなれる場を積極的に作ってくれます。たくさんイベントが用意されていました。学生が日頃取り組んでいるケースの模擬授業体験もやってくれました。学生と同じケースで、同じ教授が教えてくれます。英語もろくに話せない上に、日本人仲間もない中、一人で授業に乗り込み、ひたすら下を向いて指されないようにだけ頑張っていました。まあ、そんなことをしなくても私以外の外人たち（みな、パートナー）は、それはもう積極的に手を挙げていました。パートナーの皆さんもみな、優秀な方ばかりで、自分がみにくいあひるの子のように感じたものです。みんな、当たり前英語が話せますし。私より英語が話せない人に会ったことがありません。

他には、ポットラックという、料理の持ち寄りパーティも頻繁にありました。世界各国の料理が食べられるとあってとても楽しいのですが、ここも私にとっては試練の場。みんな基本的に立ったままで、次から次へと色んな人としゃべっている。交流を広げるから当たり前なのですが、これが本当に難しく。英語がろくにしゃべれないのに、話しかける勇気。それは相当なものです。途中、耐えきれず、退席して家に

泣き帰ったこともありました。それでも参加してこい！と主人に背中を押されまた戻ったり。

そんな大変な中でも1つ決めていたことは、英語がしっかり話せないからこそ、顔だけはちゃんと出そうと、どのイベントも断ることなく、出席だけは、し続けました。すると道で会って声をかけてくれる人が出てきたり、それぞれの国の料理を教えあうクッキングレッスンをするお友達が出来たり。私なりの進歩がありました。

いまだに英語は苦手なので、何を話しているのかよくわからないけれど、「ワーオ！リアリィ?!」とやたらに大きさにリアクションすることだけは上達しました。馴染んでる風です。

留学期間は2年間。限られた期間で、しかもボストンという都会すぎない、落ち着いた街で暮らしやすく、私の人生にとっていい経験になる時間を過ごせています。

主人は毎日ケースを2~3つ、多い時は4つも、当然ながら英語でやっていて大変そうではありますが、働いていた時とは違う時間の流れの中で、充実した時間を過ごしているようです。1年生の時はクラスが決まっていて、そのクラスで旅行をしたり、タキシードに身を包んでカジノパーティをしたり、運動会をしたり、チャリティオークションをしたり、本当にたくさんのイベントがあって夫婦で多に楽しんでいきます。日本では経験できないことばかりです。

ボストン生活も残りあと4カ月ほどになってきました。2010年5月末には卒業する予定です。数少ないながら、日本以外の国のお友達が出来たこと、色々な文化、考えを知れたこと、本当にいい経験の2年間です。ヨーロッパ1カ月旅行を始め、世界各国多くの国に旅行に行けたこと、メジャーリーグやNBA観戦、ボストンシンフォニーの小澤征爾のコンサート、五嶋龍のバイオリンコンサート、アメリカ人宅にサンクスギビングディナーを招待されたこと、学生だからこそその時間的余裕を大いに活用して夫婦2人で遊び尽くせたことも、貴重な経験です。日本に戻ったらとにかく時間がないですから！

ボストンは歴史ある赤レンガの町並みで、夏は緑豊かな、そして秋には燃えるような紅葉が見られる素敵な街です。皆様、ロブスター、クラムチャウダーを食べに、松坂戦を見に、ぜひボストンへ！



外国人の友達とランチ（著者は右から2人目）